

令和7年度 みやき町立中原中学校 学校だよりNo.6



蒼鷹

～青空を大きく舞う鷹のように～

発行：令和8年3月9日（月）

（文責）校長 川原文

《始業式》1月8日

3学期は1年の中で一番短い学期ですが、実は一番「次につながる」学期です。次の学年へ、そしてその先の自分へと向かう準備の時間でもあります。こういう言葉で3学期をスタートしました。

「目標」「挑戦」「今を頑張ること」、そして「大人に近づいていくみなさんへ」という話をしました。

- ①目標は、最初から完璧でなくていい。
- ②失敗しても、挑戦を続けてほしい。
- ③今、頑張ること、希望は必ず見えてきます。そして、自分の「大好き」を探してください。それは、みなさんがこれから生きていく力になります。

最後に、大人に近づいていくみなさんへ

ふとした瞬間に、「誰にも分かってもらえないな」「一人である気がする」「前より、少し寂しい」と感じることはありませんか？「なんだか寂しいな」「前より心がモヤモヤするな」という気持ちは、決しておかしいことではありません。むしろ、それはみなさんが成長している証拠です。

大人になるということは、ある意味で、孤独を知ることでもあります。人は、一人で生まれ、一人で人生を歩き、最終的には一人で人生を終えます。そう考えると、孤独を感じることはとても自然なことなのかもしれません。

だから、寂しい気持ちになったとき、「自分は弱いんだ」「ダメだな」と思わなくていいのです。

大切なのは、孤独とどう向き合うかです。その寂しさを紛らわせるのではなく、自分が夢中になれることを大切にしてください。そんなときこそ、自分の「大好き」が力になりますし、好きなことに打ち込む時間は、心を元気にしてくれます。一人の時間を、強さに、さみしさを力に変えてくれます。

ただし、「孤独と向き合うこと」と ずっと一人であることとは 少し違います。いつも一人で頑張らなければならない

という意味ではありません。

学校というところも、もちろん一人だけで頑張る場所ではありません。友達、先生、周りの人と理解し合いながら力を合わせて生活することは、とても大切です。相手を尊重すること、違いを認めること。中原中では2学期に、みんなまで学びました。「リスペクト・アザース」の気持ちを忘れずにいきましょう。

3学期という短い時間。大切に過ごし、次の自分へと、しっかりつなげていきましょう。

《2年生 立志式》2月20日

2月20日に、2年生の立志式を参観させていただきました。

緊張しながらも、顔を上げてみなさんを見ながら、確実に後ろまで届く声で、真剣な態度でひとりひとりが選んだ言葉を発表していました。

選ばれた言葉も、多種多様でしたし、「努力」が一番多かったと思います。多かったのですが、そこに込められた意味はその人その人の思いがあって、皆さんの、今、の決意を込めた、考えに考えた言葉だということがしっかり伝わってきました。中には慣れないことへの挑戦で、すごく緊張した・・・という人もいたと思いますが、堂々とした発表ぶりでした。すばらしかったです。

準備、進行はすべて実行委員会が行いました。



最後に全員で。

緊張から解放されたのでしょうか。いい笑顔の写真になりました。

立志式で示した一人一人の決意を力にして、これからの自分らしい一歩を踏み出してほしいと思います。

《1,2年生 クラスマッチ》 3月3日,4日

1年生は、バレーボール。2年生は多種競技でクラスマッチが行われました。これも、内容、準備、進行は実行委員が中心になって行いました。

1年生は、男女ミックスチームでの対戦でした。皆、分け隔てなく仲が良く、試合に熱中しながらも優しい言葉をかける人もたくさんいて、とてもいい雰囲気で行われました。

下の写真は2年生ですが、2年生は、スポーツだけでなく、クイズあり、ダンス?あり、数種類のゲームを組み合わせで計画されました。スポーツだけでなく、みんなが楽しめるよう企画されたことと思います。

笑顔あふれるクラスマッチとなりました。みんなで過ごしたこの一日を思い出に刻んでほしいと思います。



《3年生を送る会》 3月5日

2年生の生徒会を中心に、3年生を送る会を催してくれました。



写真は、オープニングダンスの様子です。1,2年生からのメッセージムービーや転勤された先生方からのビデオメッセージ。そして、吹奏楽部による演奏。3年生もとて

も喜んでくれました。

心を込めて準備した会は、3年生への大きな励ましとなりました。1,2年生の思いと感謝がしっかりと伝わった、素晴らしい時間だったと思います。3年生の笑顔が、そのことを何より物語っていたように感じます。1,2年生に心から感謝します。

《3年生修了式》 3月5日

3年生の修了式での話から

式の中で引用し、紹介した脇屋友嗣(わきや・ゆうじ)さんの言葉に、

何かをなせるか、なせないかの差は、

才能の差でも、運の差でもない。

と、いうフレーズがありました。

私は、「覚悟」の差だと思っています。「覚悟」というのは、結果がどうなるかわからなくても、それでも「前に進む」と決める勇気のことです。「選んだ道を歩き続ける」と決める強い気持ちのことです。そして、「覚悟」は結果の良し悪しに左右されるものではありません。結果がどうであっても、「覚悟をもって必死にやった」という事実。これに勝るものはありません。「覚悟」を決めて、ことに当たったら、その先の自分の行動や、迷った時の選択がとてもシンプルで簡単なことに見えるようになります。みなさんにもぜひその景色を見てほしい。そういう思いを込めて、「覚悟」という言葉を贈ります。

という話をしました。1,2年生にはこの続きを、17日の修了式でお話したいと思っています。

《地域のみなさまへ》お礼

今年度一年間、温かく中原中学校を見守っていただきありがとうございました。このような言葉では言い尽くせませんが、感謝をお伝えしたくここに書かせていただきました。

今はまだ13~15歳の未熟な子どもたちですが、毎日少しずつ成長を遂げ、いつか、ふるさと中原の力になってくれることと思います。また、そのような人材として送り出せるよう、引き続き職員一同尽力してまいりたいと思っています。

4月から新しいメンバーとなります。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。